



日本語検定も教材提供

千葉県の東京湾岸を走る JR 京葉線の海浜幕張駅周辺は、オフィスビル群やショッピングセンターが多数あり、埋め立て地に造成された人工都市の名がピッタリする。同駅から大きな通りに沿って 15 分ほど歩くと、学校法人放送大学学園が運営する放送大学本部のビルに到着する。同大は、テレビやラジオなどを通じた遠隔教育、生涯教育の通信制の公開大学として知られているが、その一方で、ネットを利用した e ラーニングの普及などを目的に、さまざまなプロジェクトを推進、日本語検定も教材提供している。



日本語検定が参加するのは、UPO-NET（オンライン学習大学ネットワーク）プロジェクトと呼ばれ、ICT 活用・遠隔教育センターが担当している。大学などの高等教育機関が必要とする、学生に対する基礎教育、初年次教育、キャリア教育などに関する教材を共有して大学などに提供し、e ラーニングを後押ししようというものだ。

教科書会社や出版社、あるいは自主開発した教材は、UPO-NET の教材配信サーバに蓄積される。学生が学習する際には、大学や自宅のパソコンから大学の学習管理サーバ（LMS）にアクセスし、各大学のサーバが UPO-NET の教材配信サーバにアクセスして教材を呼び出す仕組みだ。教材の中には、文字だけではなく動画や音声を取り込んだものあり、LMS に組み込まれていることから、学生には自分の大学が開発した教材を利用して学習しているように見えるという。

また、学生が教材で学習したり、テストを受けたりした際の学習履歴や成績は利用大学の LMS にだけ蓄積されるため、個々の学習記録などが大学外に漏れる心配はない。

UPO-NET は、現在、社会的要請が強い大学などの入学前・初年次教育とキャリア教育の教材提供に特に力を入れている。今年 4 月に本格配信がスタート、25 大学、7200 人以上の学生が利用。さらに、7 月からは放送大学の 8 万人の学生への学習支援の一環としての教材提供も始めた。

スマートフォンや iPad でも日本語検定学習

教材は、数学や、物理、TOEIC など有償、無償合わせて 25 教材をそろえ、今後さらに、「理系学生のための教科教材やレポートの書き方や就職活動についての学習教材の公開を予定している」（芝崎順司准教授）という。

また、学生がすき間時間を利用していつでもどこでも学習できるように、モバイルでの学習環境整備を進めている。11 月末からは、iPhone（アイフォーン）や Android（アンドロイド）などを搭載したスマートフォン（多機能電話）、iPad（アイパッド）でも学習できるようになった。



日本語検定の場合は、初年次教育の教材として、既に検定試験に出題した 2 級（大学生～社会人レベル）から 6 級（小学校中・高学年レベル）の過去問題を提供。各級の問題数は 2、3 級が各 18 問、4 級が 17 問、5、6 級が各 15 問で構成され、学生は自分の時間とペースに合わせてクイズ形式で学習を進めることができる。

すべての級をあわせて半期 600 円で、現在 4 大学が利用している。

学生の就職活動に役立つためという大学もあり、その“成果”を日本語検定の受検でチェックしているところもある。

また、これらの大学からは、問題数の増加や模擬試験的な出題内容などを求める声も寄せられている。その背景について「学生の学力低下の根にある日本語力の低下に対して、大学が個々に対応することは時間やそのための手間を考えると、なかなか難しい。そこに UPO-NET が介在して、日本語力の向上を目指す e ラーニングによる学習を支援する意義がある」（芝崎准教授）と話している。

（文責は 時事通信社記者 牧俊朗）